

## 11-2

## 古文(2)

## 練成問題

① 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

芝三島町に菓子をかきなふ新右衛門といへるは、少欲<sup>\*</sup>至直<sup>\*</sup>にして、日ごとに買ふ品の価をあらそふ事なく、<sup>\*</sup> 売る人の言ふままにまかせてとめければ、<sup>①</sup> 家内の者いぶかりて、「商人はいづれも同じ事にて、その価の高下をあらそふ<sup>\*</sup>ならひなるに、<sup>②</sup> いかなればかく言ふままには<sup>③</sup> したまふぞ。」と<sup>④</sup> 言ふを<sup>⑤</sup> 聞きて、「かれらは日ごとに重きを荷ひて、朝は<sup>\*</sup>とく出で、夕べには遅く帰る。ことに暑寒の折からはその苦しみ<sup>\*</sup>言ふべくもあらじ。おのれらは年中店に居て風雨の<sup>\*</sup>うれへもなく家業を営むは有りがたき事ならずや。たとひ人にも施す事は為しがたくとも、せめてはその価をあらそはずしてとめなば、少しはかれらがたすけともならんか。」と言ひける。後々は、新右衛門が<sup>※</sup>ある事を知りて、売る者も価を低くして持ち来たりしとなん。

〔大田南畝「仮名世説」より〕

(注) 至直<sup>※</sup> 非常に正直なこと。

売る人<sup>※</sup> ここでは日用品などを売りに来る行商人たち。

ならひ<sup>※</sup> 習慣。

とく<sup>※</sup> 早く。

言ふべくもあらじ<sup>※</sup> ことばでは表現できないほどだろう。

うれへ<sup>※</sup> 心配。

□(1) — 線①「家内の者いぶかりて」とありますが、その理由として適切なものを次から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 新右衛門がいくら値切っても、行商人が全く嫌がらずに、毎日、商品売りにやってきたから。

イ 新右衛門が値引きの交渉を全くせず、行商人に言われたままの値段で商品を買っていたから。

ウ 行商人が買うように勧めたものを、新右衛門は、必要がなくてもすべて買っていたから。

エ 新右衛門が自分の店の菓子を、全くもうけの出ない値段で、行商人に売ってやっていたから。

□(2) — 線②「いかなれば」の意味として適切なものを次から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア どうして イ どのように  
ウ どこで エ いつならば

□(3) — 線③「したまふぞ」の読み方を、現代仮名遣いで書いて答えなさい。

□(4) — 線④「言ふ」、⑤「聞き」のそれぞれの動作の主語にあたるのは、どれですか。次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 新右衛門 イ 売る人 ウ 家内の者

□(5) <sup>※</sup>に入ることをもととして最も適切なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

ア 金 イ 才  
ウ 力 エ 情

② 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

\* 奉公人のはたと覚しきが宿を a 借り、\* 四方山のこと語り尽くしけり。\* 亭ほめて、「\* いかさま、ただの人とは見えさうらはず。もはや休み給へ。\* 夜着を \* 参らせんや。」と b 言ふ。「いや、\* いかほどの \* 野陣山陣をしつけ、少々寒きことをば知らず。① 無用。」と c 言うて、着のまま寝ねけるが、② \* 夜ふくるに従ひ、\* ひたもの寒し。

時に、「亭主、亭主。③ \* 此のねずみには、足を洗はせたか。」と d 問ふ。

\* いや、さやうのことはなしと答ふ。「それならば、むしろを二、三枚着せられよ。ねずみが、着た物を踏まば、\* むさからうずに。」と。

〈安楽庵策伝「醒睡笑」より〉

(注) 奉公人のはたと覚しき以前、武家の家臣だったと思われる者。

四方山のこといろいろなこと。

亭主(宿の主人)。

いかさまなるほど。

夜着ふとん。

参らせんやお持ちしましょうか。

いかほどのたくさん。

野陣山陣をしつけ野や山での戦いを慣れていて。

夜ふくる夜がふける。

ひたものひどく。

これのこの家の。

着せられよ掛けてください。

むさからうずに不潔であろうから。

□(1) 本文中に、会話部分で「」のついていないところが一箇所あります。その部分を書き抜いて答えなさい。

□(2) 線 a、d の中から、主語が他と異なるものを選び、記号で答えなさい。

□(3) 線①「無用」とありますが、何が無用のですか。次から最も適切なものを選び、記号を○で囲みなさい。

- ア ほめことば
- イ ふとん
- ウ 着がえ
- エ 睡眠

□(4) 線②「夜ふくるに従ひ」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書いて答えなさい。

□(5) 線③「此のねずみには、足を洗はせたか」とありますが、なぜ、このように聞いたのですか。最も適切なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

ア 寒さにふるえているであろうねずみがあわれで、ねずみにむしろを掛けてやってほしかったから。

イ ねずみの足が汚れていると、自分の着物を踏まれた場合に着物が汚れるので心配だったから。

ウ 不潔さにかこつけて、夜具の代わりにかぶるものをもらって、寒さをしのぎたかったから。

エ 宿があまりに寒くて不潔なので、外で野宿をする方がましだと思います、皮肉を言っていたから。

12-1

文法

付属語

確認問題

1 次の文の付属語を○で囲みなさい。( )の中は付属語の数です。

例 カエルが 歌を 歌う。(2)

□(1) 大きな 声で 話す。(1)

□(2) 学校から 五時に 帰る。(2)

□(3) 父は 明日から フランスへ 行く。(3)

□(4) 友達と おしゃべりするのとは とても 楽しい。(3)

□(5) その ころは、食べ物 が 不足して いた。(4)

2 次の説明のうち、助詞にあてはまるものにはAを、助動詞にあてはまるものにはBを、「」に書き入れなさい。

□(1) 活用する付属語である。

□(2) 活用しない付属語である。

□(3) 主として用言に付く。

( )

( )

( )

3 次の——線部の付属語は助詞ですか。助動詞ですか。助詞ならAを、助動詞ならBを「」に書きなさい。

□(1) 明日<sup>①</sup>は 晴れる<sup>②</sup> だろ<sup>③</sup>。

□(2) 風<sup>①</sup>は ない<sup>②</sup>が、花<sup>③</sup>が 散っ<sup>④</sup>た。

□(3) 母<sup>①</sup>が 弟<sup>②</sup>に 部屋<sup>③</sup>の 掃除<sup>④</sup>を さ<sup>⑤</sup>せ<sup>⑥</sup>た。

( )

( )

( )

( )

( )

( )

( )

( )

( )

4 次の——線部の助詞の種類をあとから選び、記号で答えなさい。

□(1) テレビ でも 見よう。

□(2) 犬 が 走り回る。

□(3) 苦しく ても がんばる。

□(4) 一緒<sup>いっしょ</sup>に 行こう よ。

□(5) わたし は 大丈夫。

- ア 格助詞
- イ 接続助詞
- ウ 副助詞
- エ 終助詞

( )

( )

( )

( )

( )

( )

( )

( )

( )

( )

( )

( )

( )

( )

( )

5 次の——線部と同じ意味の助詞をあとから選び、記号で答えなさい。

□(1) 空の青い日は、気持ちまで晴れ晴れとする。〔 〕

ア この青いひもが付いているのがわたしの靴だ。

イ 父の車は、五年前に買ったものだ。

ウ わたしの編んだぼうしは、妹によく似合う。

□(2) 先生にしかられてしまった。〔 〕

ア 友達と図書館に行く。

イ 母に起こされて早く起きた。

ウ やつと頂上にたどり着いた。

□(3) イギリスからメールが届いた。〔 〕

ア 祖母は、風邪から肺炎を起こして入院した。

イ 名古屋からおいしいお菓子が送られてきた。

ウ 小麦粉からうどんを作って食べた。

□(4) サッカーでもしようか。〔 〕

ア のどが渴いたので、ジュースでも飲もう。

イ こんな問題なら小学生でもできるよ。

ウ 大声で呼んでも、なかなか来てくれなかった。

□(5) 三十分ばかり待っていてください。〔 〕

ア 父は、帰宅したら野球ばかり見ている。

イ 顔がゆがんで、今にも泣き出さんばかりだ。

ウ 箱の中にチョコレートが十個ばかり入っている。

6 次の——線部の助動詞の意味をあとから選び、記号で答えなさい。

□(1) クラスの全員に注目された。〔 〕

① お客様は朝早く家を出発された。

② 遠くに住んでいる祖父のことが思われた。

③ 学校までは近かったので、二分で行かれた。

〔ア 受け身 イ 尊敬 ウ 自発 工 可能〕

□(2) 午後からかみなりが鳴ろう。〔 〕

① さあ、みんなで大きな声で歌おう。

② 今年こそ、五十メートル泳げるようになろう。

〔ア 意志 イ 勧誘 ウ 推量〕

□(3) 去年、弟が生まれた。〔 〕

① もう宿題は終わった。

② 壁にかかった絵は、有名な画家が描いたものだ。

③ 電話をくれたよね？

〔ア 過去 イ 確認 ウ 存続 工 完了〕

□(4) もうすぐ勝負がつきそうだ。〔 〕

① 合唱コンクールで九州代表が優勝したそうだ。

〔ア 伝聞 イ 様態〕

□(5) あの雲は、まるで草原の羊のようだ。〔 〕

① みんな、もう集まっているようだ。

〔ア 比況(たとえ) イ 推定〕